

《今朝の聖書から》 “おおよそ、自分を高くする者は低くされ、自分を低くする者は高くされるであろう。” というのが今朝の御言葉です。集合写真などを撮るとき、真ん中に座ってやろうと思って真ん中に座ったつもりが、いつの間にか、後ろに立っていた、などという光景をたまに見ます。このような事を避けるために、座席に名前を書いておくなどということもします。この“順番”というものは、昔からとても気にされたことでした。“婚宴”というものは人生の一大行事ですから、更に慎重になったことの一つでした。そしてこの席順ですが、招かれた人が決めることではなく、招く人の決めることなのです。旧約聖書の箴言には“尊い人の前で下にさげられるよりは、「ここに上がれ」といわれるほうがましだ。(25:7)”ともあります。“上座にどうぞ”と言われないのではなかろうかと、と心配しながら、下座に座るのも寂しい人の姿です。しかし、聖書はこのようなことをあたかも、救いの本質に関することとして、この箇所にするしてはいるのではありません。そのことは“客に招かれた者たちが上座を選んでいる様子をごらんになって、彼らに一つの譬を語られた。(14:7)”から判るように、惨めな人々の姿と、“正しい人々の復活の際には、あなたは報いられるであろう(14:14)”から判るように、救われる人々の姿について語られているのです。イエス様は、目の前で展開される有様を用いて、救いの真理を解説してくださっているのです。主に比べれば、一人一人は、どの程度上座に座する内容を持っているかということです。“私も大分、イエス様のように出来るようになりました”といったら、ほとんどの人は“冗談”に受け取ってくれるでしょう。また順番は問題にすべきではないのです。仮にあったとしても、それは主が決められることです。今朝の箇所の後半に進みましょう。12節以降です。日常的にも、祝いに招くことも、お礼をすることも私たちはよく知っていますから、この教えもよく分かります。どのような御礼があるかを問題にしていたのでは、祝いに招いた意味がなくなってしまうのです。古代ユダヤには喜びを共にしなければならぬことと、お礼をしてはいけないという戒めがありました。取引になってしまうからです。14節に“そのときあなたは、捧げる喜びを知る”ことが書かれています。更にこのことは、最終最後の、復活の日にまで及ぶのです。審判の座に、安心して臨む事の出来る人は、すべての人の復活の中で、どんな人かを聖書は、示しているのです。

# 週報

2007年 9月 2日



主イエスを信じなさい。そうしたら、あなたもあなたの家族も救われます。  
使徒行伝16:31

日本フリースタジスト

## 清水草薙キリスト教会

教会学校	毎日曜日	午前 9:00
礼拝式	毎日曜日	午前 10:30
	(聖餐式 第一日曜日)	
夕礼拝式	毎日曜日	午後 7:00
エステル一会	毎水曜日	午前 10:30
聖書研究祈祷会	毎水曜日	午後 7:00
ホームページ	<a href="http://kusanagi.church.jp/">http://kusanagi.church.jp/</a>	

T 424-0885

静岡市清水区草薙杉道3丁目2-26

☎054-345-4070 E-Mail [grace@big.jp](mailto:grace@big.jp)

牧師 村上定幸